

v. 家財たなおろしと思い出物の情報化

これから述べることは、あまり重要でなさそうで、場合によっては住みかえを諦めることになるぐらい重要なことですから必ず実践してください。

1. 家財たなおろし

20年も住んだ家には山のように無駄なものが蓄積されています。これらを全部ひきずったままでは移住・住みかえもままなりません。歳をとるにつれて、そうじや整理もおっくうになりますから、死ぬまで二度と見ないものもどこかでほごりをかぶって放置され、結局は捨てるしかなくなる場合が多いのです。そこでぜひお勧めしたいのが、退職や子供の独立を機に家の中にため込んだ物を大整理することです。これを家財たなおろしと名付けることにします。

まず、家の中を総点検し、次のように分類してみてください。

I 分類	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在使っていてこれからも使う可能性の高い家具や食器、備品 ● その他これからの生活や仕事で活用する可能性が高いものすべて ● 使うわけではないが、明らかに捨てるわけには行かないもの。
II 分類	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後使う可能性が高いとは言えないが、必要ないとも言いきれないもの。 ● 蔵書や CD、趣味のコレクションなど保有しているこ

	とに意味があるもの
III 分類 思い出物	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後使う可能性はないが、思い出があるので捨てがたいもの。 ● 仕事関係の書類等で捨てずにとっておいたがもはや使わないもの。 ● ずいぶん長く使ったので機能的に言えば買い換えても構わないし、そのほうが便利かもしれないが、思い出があるのでこのまま使うことになりそうなもの。 ● 思い出そのもの（旅行のパンフや写真アルバムなど）。 ● 子供のもので子供が持っているべきもの。 ● 子供のものだが、親の思い出としてとってあるもの。
IV 分類	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後使う可能性がなく、捨ててよいものすべて。 ● 収納した時点では捨てない理由があったが、再考すると捨ててもよいと思えるものべて。

II 分類 – 生活の含み資産

個人の性格によりますが、「あとで使うかもしれないからとっておこう」と思ってしまいこんだままのガラクタは家の中に驚くほどたくさんあります。これには、① そもそも使わないままになるものが多い、② 実際には役に立つのだがどこにしまいこんだか分からないので結局は必要なときに使えないまま放置される、という2つの問題があります。40代以降は①よりは②が深刻になってきます。

II 分類は生活の含み資産とでもいうべきもので、必要なときにサッと取り出せるなら、役に立つしお金の節約にもなります。しかし、戸棚の奥や軒先の物置にしまいこんだものをすぐに取り出せる人はまれです。

結局のところ再利用の可能性は、かなり低いと思った方がよいのです。

そこで、大整理の機会に、そうしたものを一度全部取り出した上で、
①再利用の可能性が低いと思ったらⅣ分類にする、②Ⅱ分類のままにする場合は、後段で述べるたなおろし伝票を使った整理を通じて収納場所が分かるようにします。

ゆとり住みかえの場合は物置への平行移動も ゆとり住みかえを実践する方の場合、家じたいはコンパクトになっても土地は広めになることが多いので、家とは別に物置小屋を作ったり、家の設計の中に比較的広めの収納スペースや書庫などを作り込むことをお勧めします。そういうスペースがあれば、Ⅱ分類のものはとりあえずそのまま平行移動させることもあってよいと思います。

✚ Ⅳ分類を処分する

Ⅱ分類の次にすぐにやるべきことはⅣ分類の物をきれいさっぱり処分することです。リサイクルできるものはリサイクルしたほうがよいでしょうが、意外とめんどろです。多少のお金がかかっても民間業者にまとめて持って行ってもらうことをお勧めします。リサイクルは業者がやってくれるはずだと思ひましょう。民間業者が持って行ってくれないものは、断固たる態度でゴミもしくは大型ゴミとして捨てます。

住みかえの際に整理するなら、引越業者に頼めばまとめて処理してくれます。業者を選ぶときにそうしたサービスの有無も確認するとよいと思います。

・・・とししろをあけておく

() 家 家財たなおろし伝票

場所	1 F 納戸① ② 2 F クローゼット 子供部屋① ・・・ ※ あらかじめ書いておくこと楽	※ 見つけにくいものはより詳しい場所を書く
品名		
帰属者	パパ、ママ、子供名、子供名・・・ (○をつける)	
処理	廃棄 わたす 情報化 その他	
分類	第1回	Ⅱ Ⅲ Ⅳ
	第2回	Ⅱ Ⅲ Ⅳ

たなおろし伝票 たなおろしにあたっては、上のようなたなおろし伝票を A4 の用紙 1 枚に 2 つ書いて、コンビニで 50 枚程度コピーします。半分に切れば 100 枚の伝票ができあがります。伝票はⅡ分類～Ⅳ分類の物があつたら 1 品目について 1 枚使います。最初は伝票と鉛筆だけを持って目視で分類だけするのがコツです。その場で片付けたくなるものもありますが、すぐに時間が経ってしまうので全部分類するまでは分類に徹します。

分類が終わったら、まず場所別に仕分けし、分類順に並べ替えてクリップで止めます。次に、上述の要領で特にⅡ分類について再分類を試み、できるだけⅣ分類を増やします。再分類作業が終わったら、それぞれからⅣ分類を抜き出してひとまとめにし、日を決めてそれぞれの場所から運び出してゴミに出します。Ⅳ分類伝票は「捨てた物ノート」として残しておき「アレどうしたっけ?」と思ったときに確認します。また、Ⅱ分類として残すことにしたのもも伝票をひとまとめにして「お役立ちグッズノート」としてすぐに見られるところに置いておけば、いざというときに欲しいものがどこにあるかがすぐ分かります。

さて、ここまで終われば、最後に、難物であるⅢ分類の処理にとりかかります。

2. Ⅲ分類：オモイデブツ（思い出物）

家財たなおろしで最も問題になるのが、Ⅲ分類です。これは「もう使わないが思い出がこもっていて捨てがたい物」なので、「**思い出物-オモイデブツ**」と名付けます。思い出物はアクティブシニア期を住みかえによって生き生きさせたいとき最大のお荷物です。これをいかに処理するかがアクティブシニア期の精神の自由に大きな影響を与えます。

思い出物はその性質によっていくつかの異なる処分方法があります。

✚ 残す：小さい物を記念品化する

まず、持ち運んでもかさばらないものを 5 点～10 点選びます。これらは思い出として移住・住みかえ先はもちろん、病院や介護施設まで持っていくつもりで選びます。もちろん、しまわずに机や部屋に飾ることが前提です。

✚ わたす：子供のものは原則として子供にわたす

子供の小学校時代の作文など、子供に属するものは原則として子供にわたします。子供が必要ないといったら、捨てがたいものだけ以下の方法で情報化したうえで断固として捨てます。

おもちゃやゲーム 子供のおもちゃやゲームソフトなどは、思い出と同時に遊びに来た孫が使うのではといった期待で置いておく場合があります。確かに少しぐらいなら移住・住みかえ先に置いておくのもひとつですが、基本的には捨てるべきだと思います。孫はおもちゃではなく、周囲の自然で遊ばせると考えてください。

思い出物	問題点	対応案
おもちゃ	かさばる。意外とお金がかかっているのもったいなく思う。	移住・住みかえ先等に置いておく分以外は捨てる。近くに子供のいる家があつたらあげてもよいが、そのための荷造りに時間がかかることに注意。
ゲームソフト	せっかく遊びに来た孫がひきこもってしまう。	子供に持っていってもらおう。ゲーム機に機種変更があると遊べなくなるので一緒に持たせてあげる。

✚ 廃棄：仕事関係のものは慎重に廃棄する

仕事関係の書類のうち企業秘密や個人情報に関係しそうなものがたまたま家に残っていたら原則として職場に送り返すか、シュレッダーで裁断する等して慎重に廃棄します。その他の文書や資料は以下の方法で情報化したうえで捨てます。

✚ 情報化：残りは情報化する

Ⅲ分類に属する思い出物の特徴は、今後使う可能性は非常に低いが思い出があるため捨てられない点にあります。逆に言えば、「思い出」さえ残せるならその物自体は処分してもよいということになるはずですが。このためにもっとも効率的な方法が情報化です。デジタル情報に変えてしまうわけです。

先に小さい物を記念品化するといいましたが、1000枚以上の写真をデジタル化しても容量はたかがしれています。この際全部データ化してiPadや記憶機能のあるデジタルフォトフレームなどに収納しておけば、いつでもどこでも思い出を見ることができますし、デジタルカメラなら簡単に新しい写真を追加することもできます。

特に書類で重宝するのが簡易高速スキャナーです。最近のものは裏表に印刷された資料50枚程度を2～3分で読み取ってそのまま自動的にPDFファイル化してくれます。4～5万円しますが、プリンターのスキャナー機能では恐ろしく手間がかかるので投資する価値はあります。富士通のSCANSNAPが代表的商品です。写真などは写真屋さん等でCD化してくれます。本や他人に見られて構わない書類ならデータ化するネ

ットサービスもあります。

iPadのように電子書籍や電子文書を読むための機器が急発展しています。読んでいる部分を自由に拡大できるので、老眼には非常にありがたい存在です。すでに文庫本を読んだり辞書を引くのにルーペが必要な方はむしろ積極的に電子化したほうがよいかもしれません。

思い出物	問題点	対応案
写真・アルバム	かさばる、重い、捨てがたい 未整理の写真はアルバムに整理しようとする恐ろしく時間がかかる	写真は未整理のものもアルバムに貼ってある物もいったん取り出して、スキャンしてCD化する（自分でやってもよいが、写真屋さんやネットサービスを利用すると楽）。ネガが残っていればそちらから転換したほうがきれいになることが多い。
古い資料やノート等	かさばる。劣化すると虫がわくことも	捨てがたいものはネットサービスを利用したり、簡易高速スキャナーでPDF化してiPadのような電子書籍端末やPCに整理する。
つい大人買いした本やマンガ	かさばるが二度読むことはマレ 古本に出しても二束三文	
古い家具や器具類	最もかさばる 移住・住みかえ時に最大の障害となる。	デジタル写真にとって大型ゴミにする。 木製のものなら、材質の一部を小さく切り出して記念品にする。

3. 残留思い出物から「思い出抜き」をする

情報化したあとの思い出物は断固として捨てます。

ただ、これらにはまだ「思い出」が残っています。別にオカルト的なことを言っているのではなく、何となく心理的にその状態ではまだ捨てがたいことが多いということです。そこで、残留思い出物はある程度まとめた上で、夫婦か、家族全員が集まって「思い出抜き」の儀式をします。やり方はどんな方法でもかまいません。以下に一例をあげておきます。

1. 日時・場所を決定し、関係者に通知する。
2. 友人や親戚など親しい人を招いてもよい。
3. 全員が集まったらまずお茶か食事をする。
4. 全員で情報化された思い出を観賞する（PCのスライドショーなど）
5. 残留思い出物がまとめてある部屋に移動する。
6. 代表（夫など）が残置思い出物に感謝の言葉を述べる。もし、友人にお坊さんや宮司がいたら、適当にお経か祝詞を唱えてもらう。
7. 代表の号令のもと、全員で残置思い出物を捨てるもの、リサイクルに出すもの、大型ゴミに出すもの等に仕分けし、ゴミ袋に入れたり、荷造りをしたりする。
8. 作業が完了したら、もうひとりの代表（妻など）があらためてゴミと化した残置思い出物に最後のお別れをする。

以上で、「思い出抜き」の儀式は完了です。バカらしいと思うかもしれませんが、世の中の「～式」や法事だってバカらしいと思えば意味のないものがほとんどです。でも多くの人があえて伝統や慣習に従う

のは、「～式」や法事というものが、心のけじめをつけるために非常に効果的だからです。あまり大げさにするのはどうかと思いますが、退職や子供の独立を機に、家族のみなが集まってこれまでの歩みを振り返るとともに、それぞれにとっての新しい人生への旅立ちを祝う会として「思い出抜き」の儀式を位置づければ、それなりの意義があるのではないのでしょうか。何より、「思い出抜き」の終わった残留物を捨て終わってすっきりとした家の中でくつろいでいると、新しい生活への発想がどんどんわき上がってくるはずですよ。

感傷に耽っている暇はありません。まだ人生は25年残っているのです。

4. 年金補完ビジネスとしての家財たなおろしサポート

家財たなおろしは自分でやるより第三者とやったほうがうまくいきます。1人でやっているとうまくも捨てられない物が出てきたり、奥から何年も見ていないものがでてきたときについ感慨に耽っているとなかなか仕事が先に進まないからです。

もし、ご自分で一度やってみてコツが分かったら、家財たなおろしを支援することを仕事にしてみたいかどうかがでしょう。ネットを見ると収納アドバイス2～3時間で1万円が相場のようなので、1日付き合っただけなら問題ないでしょう。月5万円～10万円を狙う年金補完ビジネスとして有望かもしれません。また、書類やマンガ、書籍の電子化代行業なども自宅でゆっくりできる仕事です。施設などに移られるエルダーシニア層からアルバムを預かってたくさんの写真を電子端末に収納してあげれば非常に喜ばれるのではないのでしょうか。